

令和6年度 川崎市学習状況調査、全国学力・学習状況調査 結果の概要と今後の取組について

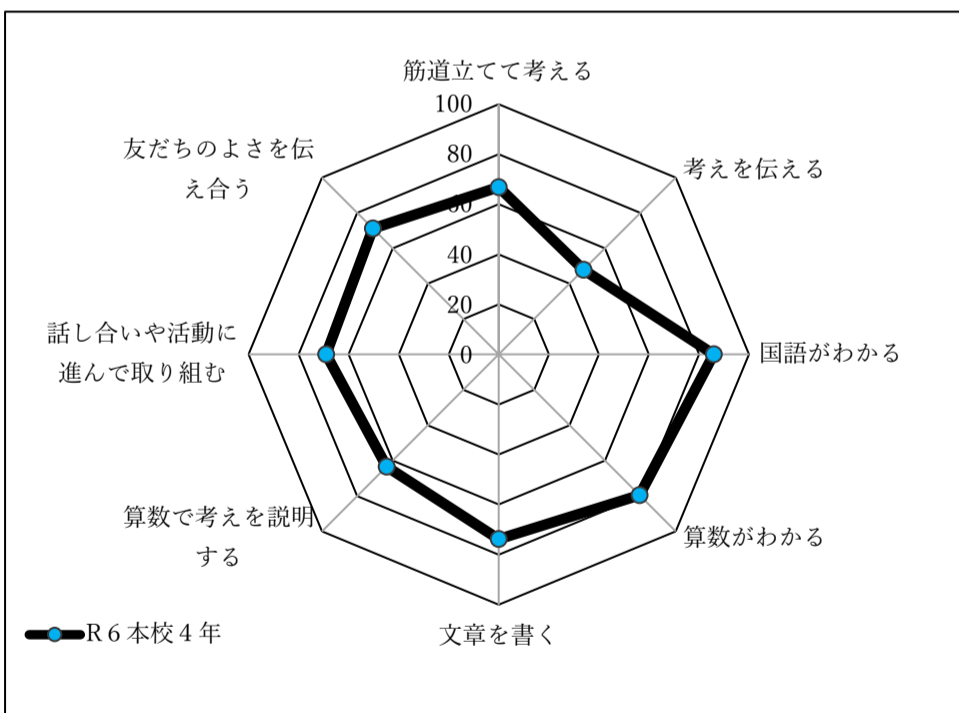
日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。4月11日（木）に行いました4～6年生対象の川崎市学習状況調査の結果と、4月18日（木）に行いました6年生対象の全国学力・学習状況調査の結果をご報告します。本校では学校教育目標（育成を目指す資質・能力、目指す児童像等）の実現に向け、日々の教育活動に取り組んでおり、今後は本調査結果を生かした取組をさらに進めてまいります。なお、本調査によって測定できるのは児童の実態の一部であり、学校における教育活動の一側面ですので、本資料につきましては、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標としてお考えください。また取組の様子は、今後の学校だよりや学年だより、学校報告会や説明会等でもお伝えします。

学校教育目標（育成を目指す資質・能力、目指す児童像等）

『子ども一人一人を大切にした豊かな人間性をはぐくむ教育』

- ・考えを深める子（根拠を明確にし、表現している。身に付けた知識・技能を活用している。）
- ・自分も相手も大切にすること（自己肯定感・自己有用感をもって生活している。）
- ・粘り強く取り組む子（学んだことを生かし、さらによいものにしようとしている。）

令和6年度 川崎市学習状況調査 4年生

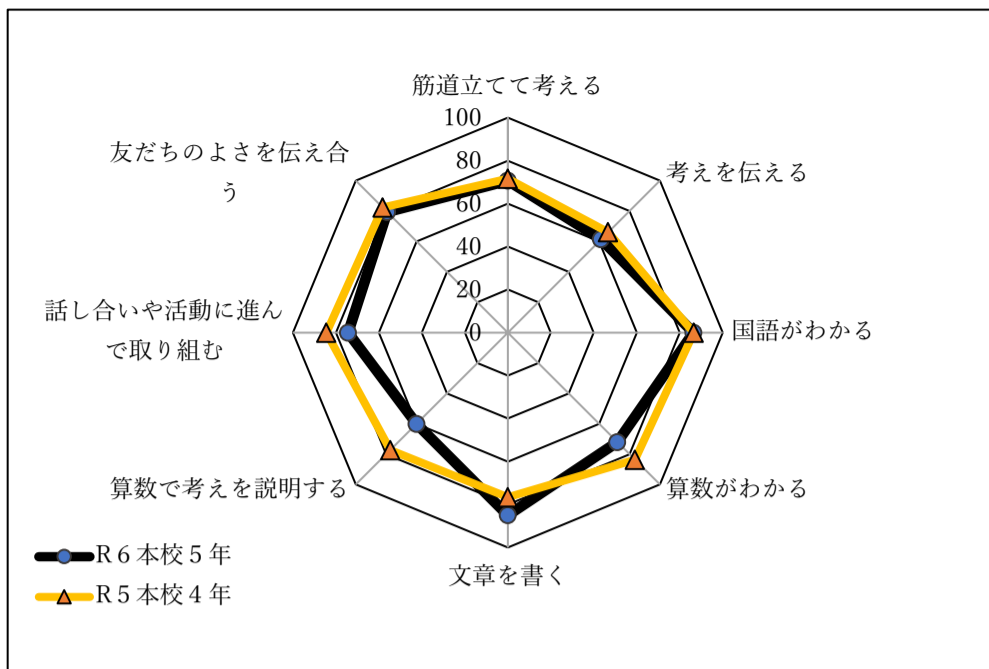


	国語 書くこと	算数 思考・判断・表現
R6 本校4年	32.7	48.6
R6 全体4年	40.2	58.2

※数値は平均正答率

- ・「算数がわかる」は80ポイントでした。児童の理解度や算数の好き嫌いについては個人差が大きく二極化の傾向が見られます。苦手意識がある児童には、課題の出し方や発問の仕方を工夫したり、個に応じた解き方のヒントを提示したりする等、児童の困り感や必要感に合わせた支援を行います。
- ・「考えを伝える」は48ポイントでした。全体的に自分の考えを伝えることが苦手と感じているようです。伝え方のモデルを提示したり、分かりやすく考えを伝えている児童を価値付けたりすることで、伝えるスキルを高めていきます。また、相手意識をもって自分の考えや思いを伝え合うことを大切にし、互いの考えを交流する機会や時間を増やしていきます。
- ・「話し合いや活動に進んで取り組む」は69ポイントでした。自分の思いをもって話し合いに参加したり、能動的に活動に取り組んだりしようとする児童が多くなってきました。今後も、自分事になるような課題や活動を工夫しながら、児童が自分の思いをもって前向きに取り組めるような場を積極的に設定していきます。

令和6年度 川崎市学習状況調査 5年生

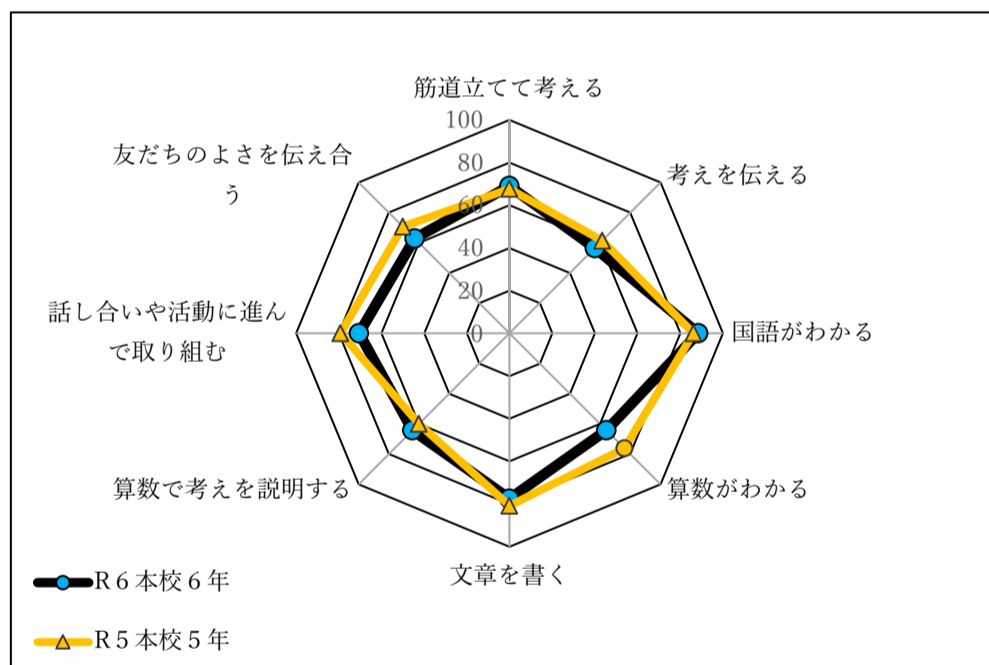


	国語 書くこと	算数 思考・判断・表現
R6 本校 5年	27.3	29.6
R6 全体 5年	36.6	38.4

※数値は平均正答率

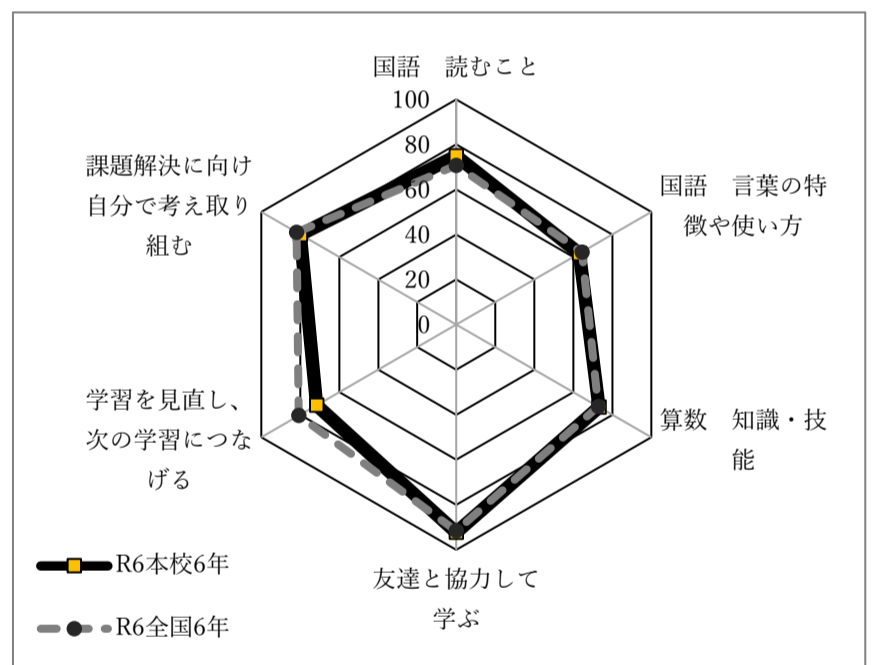
- ・「算数で考えを説明する」は60ポイントでした。「算数がわかる」は72ポイントあり、算数の知識・技能については理解度が高い傾向ですが、自分の考えを整理し伝えることが難しいようです。また、算数に限らず自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いて理解したりすることに課題を感じている児童も多いため、前年度よりも17ポイント程度下がっています。どの教科においても互いの考えを伝え合い受け止め合う機会を増やし「話す・聞く」のスキルの向上に努めていきます。
- ・「友だちのよさを伝え合う」は79ポイントでした。互いのよさを認め合う姿も多く、自己肯定感や有用感、集団への帰属感が高まっていると感じています。自分の成長が集団の成長にも繋がっていくことを全体で共有し、高め合える集団として成長できるように一人一人のよさを価値付けていきます。

令和6年度 川崎市学習状況調査 6年生



	国語 書くこと	算数 思考・判断・表現
R6 本校 6年	44.2	27.5
R6 全体 6年	48.2	31.4

全国学力・学習状況調査 6年生



※数値は平均正答率

- ・「国語がわかる」は88ポイントでした。全国調査「国語 読むこと」は全国平均を4ポイント程度上回っていました。昨年度同様、国語がわかると感じている児童が多い傾向が見られます。しかし、文章や話し合いにおいて内容理解に苦手意識をもっている児童もいます。様々な文章に触れ、内容を要約する機会を設けて読む力を育成したり、スピーチや話し合い活動に積極的に取り組んだりすることで内容を理解する力の向上を目指します。
- ・「算数がわかる」は64ポイントでした。全国調査「算数 知識・技能」「算数 思考・判断・表現」は、ほぼ全国平均と同等でした。しかし、算数の理解度については、上位層と下位層の差が大きくなっています。個に応じた課題に取り組んだり、児童が教え合う場を設定したりする等、活動方法や指導方法を工夫し、一人一人が考える力を育てていきます。
- ・「筋道立てて考える」は69ポイントでした。全国調査「課題解決に向けて自分で考え取り組む」は、ほぼ全国平均と同等でした。委員会活動や宿泊学習等を通して見通しをもって行動できる場面が増えています。今後も児童が主体的に活動する機会や、学校や学級で活躍できる場を設定し、最後まで責任をもって取り組めるよう支援をしていきます。